

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2018年6月12日
【四半期会計期間】	第89期第1四半期（自 2018年2月1日 至 2018年4月30日）
【会社名】	モロゾフ株式会社
【英訳名】	Morozoff Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山口 信二
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区御影本町六丁目11番19号 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は六甲アイランド オフィスで行っております。）
【電話番号】	078(822)5000(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 山岡 祥記
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区向洋町西五丁目3番地
【電話番号】	078(822)5000(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 山岡 祥記
【縦覧に供する場所】	モロゾフ株式会社六甲アイランドオフィス （神戸市東灘区向洋町西五丁目3番地） モロゾフ株式会社東京支店 （東京都新宿区新小川町4番1号 KDX飯田橋スクエア6階） モロゾフ株式会社関西支店 （神戸市東灘区御影本町六丁目11番19号） モロゾフ株式会社名古屋支店 （名古屋市中区栄二丁目1番1号 日土地名古屋ビル7階） モロゾフ株式会社福岡支店 （福岡市博多区博多駅南六丁目13番33号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注）上記の当社福岡支店は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜のため、特に縦覧に供するものであります。

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第88期 第1四半期 累計期間	第89期 第1四半期 累計期間	第88期
会計期間	自2017年 2月1日 至2017年 4月30日	自2018年 2月1日 至2018年 4月30日	自2017年 2月1日 至2018年 1月31日
売上高 (千円)	8,236,984	8,070,868	29,600,498
経常利益 (千円)	1,060,322	1,028,695	2,472,598
四半期(当期)純利益 (千円)	736,325	689,468	1,656,472
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	3,737,467	3,737,467	3,737,467
発行済株式総数 (株)	36,692,267	3,669,226	3,669,226
純資産額 (千円)	14,641,144	15,894,671	15,686,793
総資産額 (千円)	21,667,209	22,436,589	23,680,538
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	205.09	193.00	463.04
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	100.00
自己資本比率 (%)	67.6	70.8	66.2

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 2017年8月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第1四半期累計期間における世界経済は、欧米の安定した経済状況に加え、中国およびその他新興国でも景気は底堅く推移いたしました。わが国経済は、企業収益が堅調に推移するとともに、雇用・所得環境の改善を背景にした個人消費の持ち直しなどにより、緩やかな回復基調が続きました。

このような状況のもとで、当社は企業スローガン『こころつなく。笑顔かがやく。』を掲げ、お菓子を通して心豊かな生活をお届けすることを基本姿勢として、商品の開発・改善により売上向上に取り組むとともに、安心、安全かつ高品質な商品をお客様に提供し続けることに注力いたしました。

売上高につきましては、百貨店の閉鎖の影響に加え、寒波の影響などにより2月のバレンタイン商戦がやや苦戦し、当第1四半期累計期間の売上高は8,070百万円（前年同期比2.0%減）となりました。

損益面におきましては、生産性の向上により売上原価率は改善したものの、減収の影響などにより、営業利益は1,014百万円（前年同期比3.1%減）、経常利益は1,028百万円（前年同期比3.0%減）、四半期純利益は689百万円（前年同期比6.4%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### [洋菓子製造販売事業]

干菓子につきましては、寒波の影響などにより2月のバレンタイン商戦やチョコレート商品の売上がやや低調に推移したこともあり、前年同期を下回る売上高となりました。洋生菓子につきましては、カスタードプリンが、素材をいかした期間限定プリンの発売などにより好調を維持したことに加え、半生菓子の期間限定の新商品「福岡 あまおういちごのケーキ」の好調などもあり、前年同期を上回る売上高となりました。

その結果、当事業の売上高は7,661百万円（前年同期比2.2%減）となりました。

#### [喫茶・レストラン事業]

喫茶・レストラン事業につきましては、前事業年度に新規出店した「カフェモロゾフ イオンSENRI TO 店」（大阪府豊中市）などが好調を維持し、売上高は409百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

#### (2)財政状態

当第1四半期会計期間末における総資産は前事業年度末に比べ1,243百万円減少し、22,436百万円となりました。資産の増減の主なものは、現金及び預金の増加額3,606百万円、受取手形及び売掛金の減少額3,667百万円、商品及び製品の減少額1,430百万円等であります。負債は前事業年度末に比べ1,451百万円減少し、6,541百万円となりました。これは主に電子記録債務の減少額896百万円、支払手形及び買掛金の減少額286百万円等によるものであります。純資産は前事業年度末に比べ207百万円増加し、15,894百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加額332百万円、その他有価証券評価差額金の減少額124百万円等によるものであります。

#### (3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4)研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発活動の金額は、89,564千円であります。  
なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2018年4月30日)	提出日現在発行数(株) (2018年6月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,669,226	3,669,226	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	3,669,226	3,669,226	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2018年2月1日～ 2018年4月30日	-	3,669,226	-	3,737,467	-	3,918,352

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2018年1月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2018年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 96,800	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,537,900	35,379	同上
単元未満株式	普通株式 34,526	-	-
発行済株式総数	3,669,226	-	-
総株主の議決権	-	35,379	-

【自己株式等】

2018年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
モロゾフ株式会社	神戸市東灘区御影本町六丁目11番19号	96,800	-	96,800	2.64
計	-	96,800	-	96,800	2.64

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（2018年2月1日から2018年4月30日まで）及び第1四半期累計期間（2018年2月1日から2018年4月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年1月31日)	当第1四半期会計期間 (2018年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,619,296	6,225,416
受取手形及び売掛金	5,554,473	1,886,805
有価証券	1,500,790	1,500,270
商品及び製品	2,106,530	675,844
仕掛品	279,603	557,215
原材料及び貯蔵品	413,188	402,420
その他	221,528	307,342
貸倒引当金	22,000	7,500
流動資産合計	12,673,411	11,547,813
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,647,985	2,617,260
土地	3,234,338	3,234,338
その他(純額)	1,611,205	1,680,847
有形固定資産合計	7,493,529	7,532,446
無形固定資産		
投資その他の資産	148,912	152,391
投資その他の資産		
投資有価証券	2,435,496	2,257,783
その他	929,189	946,154
投資その他の資産合計	3,364,685	3,203,937
固定資産合計	11,007,127	10,888,775
資産合計	23,680,538	22,436,589

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年1月31日)	当第1四半期会計期間 (2018年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,217,041	930,463
電子記録債務	1,733,368	836,552
短期借入金	1,850,000	1,850,000
未払法人税等	533,764	446,969
賞与引当金	240,530	520,143
その他	1,644,516	1,270,533
流動負債合計	7,219,221	5,854,662
固定負債		
退職給付引当金	158,452	111,571
環境対策引当金	4,286	2,340
その他	611,783	573,345
固定負債合計	774,523	687,256
負債合計	7,993,745	6,541,918
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,737,467	3,737,467
資本剰余金	3,921,580	3,921,580
利益剰余金	7,271,935	7,604,166
自己株式	369,904	370,148
株主資本合計	14,561,078	14,893,066
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	835,575	711,465
土地再評価差額金	290,138	290,138
評価・換算差額等合計	1,125,714	1,001,604
純資産合計	15,686,793	15,894,671
負債純資産合計	23,680,538	22,436,589

( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第1四半期累計期間】

( 単位：千円 )

	前第1四半期累計期間 (自 2017年2月1日 至 2017年4月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年4月30日)
売上高	8,236,984	8,070,868
売上原価	4,151,186	4,015,571
売上総利益	4,085,797	4,055,296
販売費及び一般管理費	3,039,197	3,040,961
営業利益	1,046,599	1,014,334
営業外収益		
受取利息	203	211
受取配当金	1,267	1,202
貸倒引当金戻入額	14,000	14,500
その他	7,224	7,379
営業外収益合計	22,695	23,293
営業外費用		
支払利息	6,684	6,684
その他	2,287	2,248
営業外費用合計	8,971	8,932
経常利益	1,060,322	1,028,695
特別利益		
投資有価証券売却益	40,275	-
特別利益合計	40,275	-
特別損失		
固定資産除売却損	5,494	2,304
特別損失合計	5,494	2,304
税引前四半期純利益	1,095,103	1,026,390
法人税、住民税及び事業税	437,867	408,163
法人税等調整額	79,088	71,240
法人税等合計	358,778	336,922
四半期純利益	736,325	689,468

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2017年2月1日 至 2017年4月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年4月30日)
減価償却費	157,682千円	159,676千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 2017年2月1日 至 2017年4月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年4月26日 定時株主総会	普通株式	251,565千円	7円	2017年 1月31日	2017年 4月27日	利益剰余金

(注) 2017年8月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施しております。1株当たり配当額は当該株式併合前の金額を記載しております。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、2017年4月26日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議し、普通株式200,000株を取得いたしました。この結果、単元未満株式の買取請求による増加2,013株を加えて、当第1四半期累計期間において、自己株式が115百万円増加しております。

当第1四半期累計期間(自 2018年2月1日 至 2018年4月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年4月25日 定時株主総会	普通株式	357,236千円	100円	2018年 1月31日	2018年 4月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2017年2月1日 至 2017年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	洋菓子製造 販売事業	喫茶・レスト ラン事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,833,683	403,300	8,236,984	-	8,236,984
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	7,833,683	403,300	8,236,984	-	8,236,984
セグメント利益 又は損失( )	1,360,019	10,858	1,349,160	302,561	1,046,599

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 302,561千円は、各報告セグメントに配分していない  
    全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 2018年2月1日 至 2018年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	洋菓子製造 販売事業	喫茶・レスト ラン事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,661,751	409,117	8,070,868	-	8,070,868
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	7,661,751	409,117	8,070,868	-	8,070,868
セグメント利益 又は損失( )	1,332,241	3,939	1,328,302	313,967	1,014,334

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 313,967千円は、各報告セグメントに配分していない  
    全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2017年2月1日 至 2017年4月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年4月30日)
1株当たり四半期純利益金額	205円09銭	193円00銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	736,325	689,468
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	736,325	689,468
普通株式の期中平均株式数(株)	3,590,336	3,572,361

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 2017年8月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施したため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年6月7日

モロゾフ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

和田朝喜

印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

西方実

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているモロゾフ株式会社の2018年2月1日から2019年1月31日までの第89期事業年度の第1四半期会計期間（2018年2月1日から2018年4月30日まで）及び第1四半期累計期間（2018年2月1日から2018年4月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、モロゾフ株式会社の2018年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。